



国連世界観光機関 (UNWTO) 駐日事務所

「観光旅行の制限は緩和し始めたが依然として注意が必要」 UNWTO 報告

2020年5月31日付 UNWTO 本部発表の和訳です。

原文はこちらから：<https://www.unwto.org/news>

世界はゆっくりと再び開放されつつあり、国連世界観光機関 (UNWTO) の新しい調査によれば、新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) に対応して導入された旅行制限は慎重に緩和されています。国連の専門機関として、我々は観光を再開するためのグローバルガイドラインを発表し、より強力でより良い回復に向けた態勢を整えつつあることを示しました。また、調査によれば、世界において 3% の国々が旅行制限を緩和するための措置を講じていることが明らかになっています。

UNWTO は、パンデミックの発生以来、Covid-19 に対する世界の対応を注視しています。本日発表された「Covid-19 関連の旅行制限の第 4 報告書：観光に関するグローバルレビュー」は、2020年5月18日の時点で、**世界中における 217 の国々の政策**を再検討しました。この調査によって、7つの国々は国際観光の目的のため、旅行制限を緩和していること、及び、いくつかの国々が**国境の再開について重要な議論を行っている**ことが示されています。

依然として注意が必要

本レポートは、**世界中のすべての国々が、何らかの形で新型コロナウイルス感染症関連の旅行制限を引き続き継続していると指摘**しています。さらに、5月18日の時点で、75%が継続して国際観光に対して国境を完全に閉鎖しています。また、37%が 10 週間の旅行制限を課し、24%が 14 週間以上の旅行制限を行っているとは指摘しています。



UNWTO のズラブ・ポロリカシュヴィリ事務局長は、「旅行制限の適時かつ責任ある緩和は、観光が持続可能な方法で還元する、多くの社会的・経済的利益を確保することに役立ちます。そして、それにより世界中の何百万もの人々の生計に貢献します。このセクターは持続可能な開発の推進力であり、経済の柱です。UNWTO は、世界がゆっくりと再び開かれる際、警戒、責任、及び国際協力の必要性を強調しています。」と述べています。

ポロリカシュヴィリ氏はまた、世界の観光セクターへの信頼の高まりを歓迎し、再び成長していくことの準備ができていると述べました。観光は世界のすべての主要な経済セクターの中で最も大きな打撃を被っていますが、UNWTO は協調した対応を主導し、先週、**観光を再開するためのグローバルガイドライン**を発表しました。これらのガイドラインは、政府と民間セクターが今後数箇月で**回復を加速**するための措置を概説しています。

観光に依存している国々におけるロックダウン

世界的な旅行制限をより詳しく調査したUNWTOのレポートによると、個々の国々の経済にとって観光が重要であればあるほど、国境が完全に閉鎖される可能性が高くなります。小島嶼開発途上国においては、**85%の国々は観光目的で訪れる人々に対して国境を完全に閉鎖し続けています。**

UNWTO に加盟する国々のうち、65%以上が観光目的の訪問に関し完全に国境を閉鎖しています。地域別にみれば、完全に国境を閉じている国々は、アフリカ（74%）、米州（86%）、アジア太平洋（67%）、ヨーロッパ（74%）、中東（69%）となっています。

Covid-19 関連の「旅行制限に関する報告書」では、フライトの停止や、観光客の強制的な自己隔離、検疫等の対策など、随所に旅行制限のレベルや種類を分析して報告しています。本レポート及び過去のレポートは、[UNWTO の Web サイト](#)からアクセスできます。